

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報 2007-9

発行日：平成19年9月3日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org

Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

目次

Opinion	1-2
歴史的評価と都市・地域づくり	
News Letters	3-4
事業報告・活動報告	
Announcement	5
研究会・催事の御案内	
Backyard	5-6
事務局通信	

Opinion

「土木の仕事」試案

鈴木忠義

今年（2007年）の6月、当研究会の会員でもあり、私の近い仲間でもある篠原修教授から氏のエッセイの抜き刷りが届いた。専門誌「積算資料」の2・3・4月号の23ページ分である。それぞれの副題に、土木の教育、その目的、土木の将来とあった。

氏の体験を通して、現在専門としている景観工学の誕生を述べたものである。土木教育で土木の概念を全く教えていない、基礎学と称して手段論ばかりを相互関係を無視して教えている。

現在の経済学・社会学でも同じように、アカデミズムがかっている。

私も40年余り国土交通大学校（旧建設大学）で計画コースの研修生に3時間（現在は2時間）の講義で土木工学原論を続けている。（研修生のアンケートで上位のため辞めさせてくれない。）幾度か加筆・修正しているが、現在の思考の背景とねらいを簡潔にした“まえがき”と目次は次のようである。

国土交通大学校・研修用テキスト「土木計画原論」 まえがき

戦後60余年、ゼロから出発した我が国の文明・文化の変遷は、欧米先進国の400年の変化に追いつき、また、追い越した分野もある。

その経済社会を支える国土・都市・地方の基盤、ならびに諸技術は複雑多岐にわたることとなり、その変様も日進月歩と見ることとなった。

そこで、土木の仕事も、それらのニーズに即応することも求められようが、そのためにも基本的に思惟することが、今求められていると認識している。その一助ともなればと思い、ここに論考を進めることとした。

土木の仕事は、“公・共・私”の分野に大別され、規模も日常生活から地球まで、管理・企画・計画・設計・施工・維持の段階があると考え。それぞれの分野・段階において、具体的な土木の仕事（対象）は高度化し、学も術も、その基礎も共通ではなく異なっているものもある。

本講は、それらに共通と考えられる“目的論”の部分述べるものであり、完成すれば土木原論ともいふべきものとなると考えている。今後、多くの参画者により完成されることを願ってやまない。

国土交通大学校・研修用テキスト「土木計画原論」 —目次—

まえがき	
I 土木とその計画.....	3
1. 人間の生存を支える	4
2. 人間の営力を信じたい	5
3. 人間は文明（手段）を持った生き物	7
II 土木計画への接近.....	9
1. 人間と文明と土木	9
2. 土木の仕事	2
3. 土木の職場と土木の仕事	14
III 計画の思想.....	16
1. 人間の生活と人生と地域についての 先人の言葉	16
2. 価値意識と考え方	17
3. 部分と全体とその調整.....	17
4. 用・強・美+聖	17
5. 企画と計画の違い	17
IV 計画手法への入口	18
1. 計画の5要素と仕組み	18
2. 計画の5要素	18
おわりに	21

長い期間の講義なので、それを本にまとめたものが下記の3冊である。講義の内容を基として取りまとめたもので、いずれの本もA5判、130ページ前後である。

- 「人間に学ぶまちづくり」(社)九州建設弘済会、2003.3
- 「人間に学ぶまちづくり」(社)道路緑化保全協会、2005.1
- 「みんなでつくる美しい道」技報堂出版(株)、2007.5

内容の表現は写真と図版とし、それぞれの標題と僅かな解説文を加えた。要は、“写真の力”“見出しの力”を頼りにしたものである。読者の土木への思考・動機付けになればと考えた。

前掲の目次のII-3で「土木の職場と土木の仕事」をまとめた。図版は、以下のものである。この中で分りにくいのは、企画と計画の違いである。そして、土木に最も欠落しているのは“企画力”である。企画と計画の違いを右にまとめた。

以上のことから、教育論、国土の経緯論、政策論、組織論、技術論、計画論・・・などなどが論議されるはずである。

今回の問題提起については、土木の関係者にて研究会をつくり完成して欲しい。土木を学ぶ学生諸君にも、土木を理解し、その中で自分の

進む方向と研鑽を積んでもらいたい。

土木に職を得ているものは、職責とその分野の学と術に努力してもらいたい。

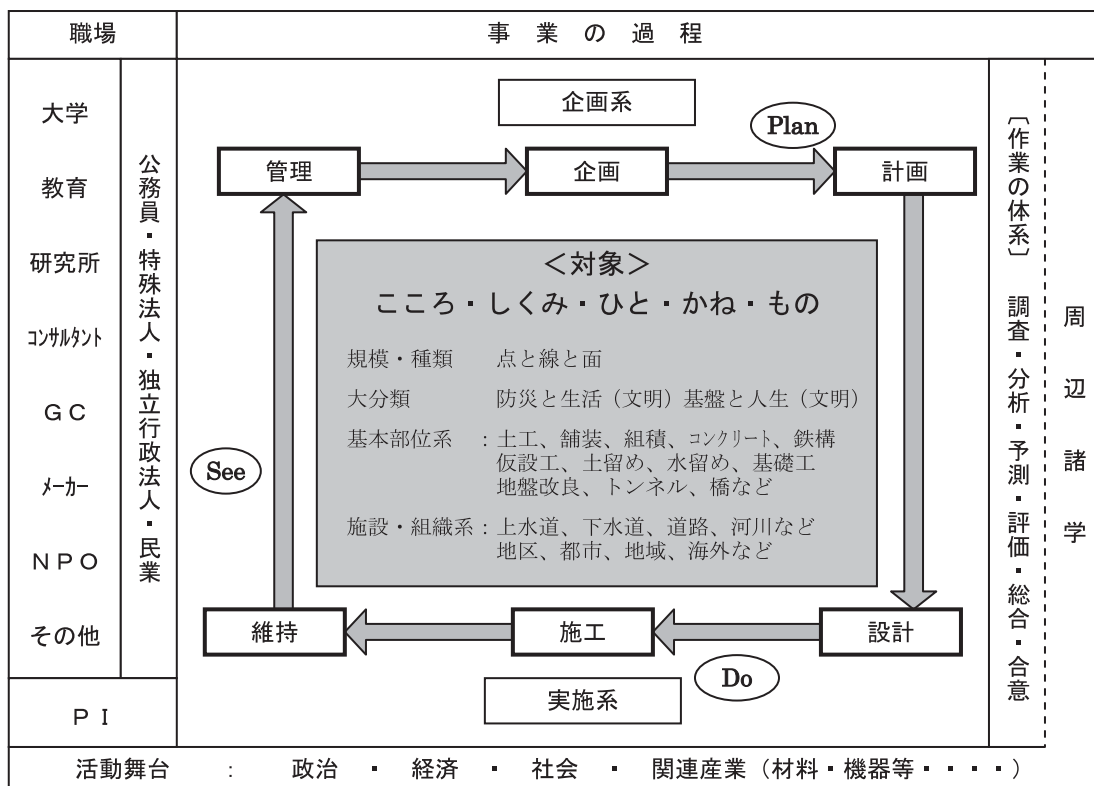
83歳を迎えた先輩より。

(計画・交通研究会フェロー／あて塾塾長)

企画と計画の違い

	企画 conception	計画 plan & planning
		民衆工学 利用者の期待、新しい概念を提示する
主体	最終利用者 素人 小売り	利用者、専門集団 玄人、同志 卸売り
目的	ビジョンをつくる 魅力を感じさせる 夢・希望をもたせる	手段の選択と順序立て 技術的可能性 実現性
表現	システム・チャート、模型 イラスト、CG ことば： 東京ー大阪3時間 通勤電車内で週刊誌が読める	もの、図面 符丁、数値 時速 200km/時 乗車率 120%

土木の職場と土木の仕事



鈴木忠義 原図 2004.8.26

■2007年7月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第6回)

●日時：平成19年7月11日(水)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木 忠義 先生

みんなで作る美しいまち

②(財)日本交通公社 研究員 渡邊智彦氏

イラン国視察報告

●参加者：18名(うち計交研関係6名)

〔講義概要〕

◆特別講義2◆(鈴木忠義)

みんなで作る美しいまち

2007年9月20日に開催予定の「にいがた景観まちづくりフォーラム」(新潟県・土木部都市局都市政策課と「当て塾」の共催)の基調講演(問題提起)の準備(その1)である。

1. 表題について

- (1)みんな：まちづくりは、もの・かね・ひと・しくみ・こころの総合の概念である。
- (2)つくる：長い歴史の中で、人はさまざまな文化(生き様)を創造・保存してきた。
- (3)美しい：人は、美しいものを愛でる。美を価値観の究極としてきた。
- (4)まち：人は共同社会でなければ文化的生活は成立しない。(国、地域、都市、田園…)

2. 人はなぜ美を求めるのか

- (1)生き物の現象観察 性
- (2)人間の欲求：交易・統治・文化(その基礎は学問、芸術、技術、教育)・宗教・人間性
- (3)文芸にみる：「芸術は何かのためにあるのか」：伊藤 整、1957、他に多くの芸術論
- (4)自然美－技術美(生きがい)－美術美
- (5)「ウイトルウィウス 建築書」(原著は33～22B.C.) 自然科学的知識を網羅した大技術の全書：用－強－美 ＋聖

3. 景観の二・三の法則

- (1)景観の要素と構成
 - ①視点 ②主対象 ③つなぎ(ひき)空間、
 - ④背景 ⑤天空(自然現象) ⑥副対象

(2)景観の認識

①知・情・意 この重なり

(2)“直感”の5つの機能

直感、直勘、直喚、直鑑、直観

(3)時間と空間－その規模の概念

(4)平面と立面

水平面、垂直面(植栽)、法面

4. 心構えと期待される効果

(1)心構え

前例のないことでもよく考えて新しいことを推進/やる気、参加・・・公・共・私/徒歩圏と健康と楽しさの理解/人間と自然の関係を深化

(2)期待される効果

①三方よし：来訪者、地域住民、行政等

②地域の活性化：生きがい、やる気、前向き人生/交流こそ文化だ、楽しさ、学習、誇り、知名度/経済活性化・・・

5. むすび

技術美の進化、景観・風景・情景

「僕のお家も景色の一つ」

◆フォーラム当てNo.5◆(渡邊智彦)

イラン国視察報告

(財)日本交通公社では、独立行政法人国際協力機構(以下「JICA」)からの受託業務により、イラン国で観光に携わる政府行政官や民間人を対象とした人材育成研修を、2004～2006年度までの3カ年間実施してきた(2008年度まで継続して実施予定)。今回のイラン国視察調査は、過去に実施された研修の成果を評価し、今後2年間実施する研修の内容や方向性を検討することなどを目的として、実施されたものである。

実際に自分の目で見たイランの多彩な観光資源や観光客の受入体制、また外国人(イラン人)から見た日本の観光地の魅力や課題などについて紹介をした。

1. 視察調査の概要
2. イラン国の概要
3. イランにおける観光行政

4. イランの観光資源と観光客の受入体制
5. イラン人から見た日本の観光地の魅力と課題
(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■2007年7月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第7回)

●日時：平成19年7月25日(水)17:00～20:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

- ①「当て塾」塾長 鈴木 忠義 先生
みんなで作る美しいまち (2)
- ②旅と観光研究室 溝口 周道 氏
国立市の景観問題の周辺

●参加者：16名 (うち計交研関係5名)

〔講義概要〕

◆特別講義3◆ (鈴木忠義)

みんなで作る美しいまち (続き)

本講は、「にいがた景観まちづくりフォーラム」の基調講演の準備の続きである。

前回のメモのうち、「3. 景観の二・三の法則

①構成要素」について、事例を示す写真を探すための事項を整理した。

3. 景観の二・三の法則

(1) 景観の要素と構成

①視点

- 1) 水平移動 x軸
- 2) 距離の変化 y軸 —— 遠近
- 3) 垂直移動 z軸

自然：丘、山／人工：展望台、ビル

②対象

- 1) 周辺との関係
消す、調和、強調・・・群景と単景
- 2) 橋のある景観、橋の姿、橋の構造
- 3) 色と形
- 4) 視線の選択 (見せ場)

③つなぎ (ひき) 空間

- 1) パンとテイルとキャノピー：展望景観
- 2) 視野とひき
- 3) 俯角 (伏角) と仰角 浮世絵の構図
- 4) テクスチャー 水面、農耕地、地形

④背景

- 1) 単純化 雪景、夜景 素材の均一
- 2) 風景 肖像画における風景の登場

- 3) 異物 二重橋と電波塔は合わない (今は鉄塔は無くなった)、顔に墨を塗る

⑤天空 (自然現象) 変化と多様性

- 1) 四季 季語
- 2) 天候 空、風、雨、雲
- 3) 光線 朝、昼、夕、夜
赤富士、ダイヤモンド富士
順光、逆光、トップライトー照明術

⑥副対象 (視点場)

- 1) 遮蔽、見切り線、借景
- 2) 絞り
- 3) 見透線・・・焦点の強調
- 4) 近景 (中景・遠景)

⑦景観と音楽と効果音

◆フォーラム当て No.6◆ (溝口周道)

国立市の景観問題の周辺

一大学通りにおける高層ビル建設問題から一

東京都国立市の大学通りにおける高層ビルの建設は、大学通りの景観を著しく損なうものであり、その高さ(20m)をめぐる争いは法廷へと持ち込まれることとなったが、高層ビルは建設され、敗訴に終わった。その背景には、歴史的な経緯の中でいくつかの問題が積み重ねられ、法的な手続きの面で後手を踏むことになり、結果として高層ビルの建設を招いてしまったことがあると考えられる。

また、都市景観形成基本計画、都市景観形成条例により、国立市の景観形成の基本的な認識・方向については合意形成されたが、高さ20mをめぐる争いに焦点が絞られすぎたことは、現実に変化が進行している景観への対応を不十分なものにしてしまったのではないか、という問題を感じさせる。

景観裁判の経過や争点等については様々なところに報告されているので、ここでは焦点となった高層ビル建設の景観問題の周辺に観られる問題点について考察した。

1. 国立の景観の特徴
2. 大学通りの景観問題
・かつての景観問題
・高層ビル建設問題
3. 景観問題の周辺
・歴史的な経緯に観られる問題点
・変化する景観への対応の問題

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■2007年10月 特別懇談会

- 日時：平成19年10月2日(火)17:30~20:00
- 場所：東京大学工学部1号館14号講義室
〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1
- 講師：高橋 裕 先生
(東京大学名誉教授・国際連合大学上席技術顧問)
- 講演題目：「民衆のために生きた土木技術者たち」

○高橋裕先生を講師にお招きして特別懇談会を開催いたします。この懇談会では講演だけでなく、映画鑑賞も予定しております。映画「民衆のために生きた土木技術者たち」(監修＝高橋裕(東京大学名誉教授) 監督＝田部純正 撮影＝藤崎彰、ナレーション＝江守徹、企画＝大成建設株式会社 制作＝大成建設株式会社・(株)日映企画 中嶋康勝)は、明治の新時代を拓いた土木技術者、青山士(あきら)、宮本武之輔、八田與一(よいち)の生涯を描いたものです。この映画をまずは鑑賞した後に、監修にあられた高橋先生からご講演をいただく予定です。講演の後には、高橋先生を囲んで会員と自由に懇談していただく場を設けます。

○参加費：1000円(飲み物・軽食代等) 当日徴収させていただきます。

◎参加を申し込まれる方は、準備の都合がありますので、氏名・所属を9月21日までに事務局まで御連絡ください。満員になり次第締め切らせていただきます。

☆詳細は同封のご案内をご覧ください。

■あて塾との共催セミナー

●開催日程以下の通り

- 第8回 9月5日(水)
- 第9回 10月10日(水)
- 第10回 10月24日(水)
- 第11回 11月14日(水)
- 第12回 11月28日(水)
- 第13回 12月12日(水)

●報告・事例とも未定、追って連絡します。

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター(APTi)が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン(IBM Think Pad)、

FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員(地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望によ

り日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。
日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。本文挿入または添付ファイルで）あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍（上限4単位＝1ページ分：表題・図表を含む）になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日（必着）です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

新アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

■メールアドレスが変更になりました。

計画・交通研究会 事務局

jimukyoku@keikaku-kotsu.org

EASTS（アジア交通学会）事務局

easts@easts.info

アドレス帳の変更をお願いします。

計画・交通研究会

会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
副会長	石田 東生
事務局長	清水 英範
会報編集委員長	藤井 聡
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

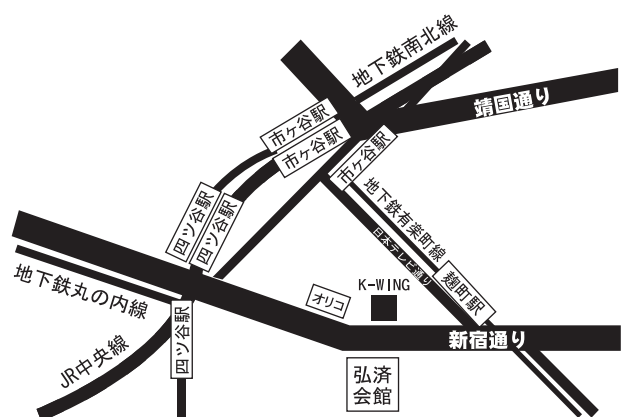
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。